

意見交換会開催内容（⑭岩間第三小学校）

日時：平成24年7月13日（金）午後7時～8時30分

場所：岩間第三小学校 体育館

出席者：8名

意見：資料を見ると、国の設置基準や県の方針に縛られているように思われる。学校の再編よりも、大きい学校も小さい学校もそれぞれの特色ある学校づくりを進めるべきだと思う。ナンバーワンではなくオンリーワンの発想によって学校・地域を盛り上げながら各校の競争原理を生み出していくことは、結果として「この学校に行きたい」、「この地域に住みたい」という定住化施策のアプローチにもつながるのではないかと。

回答：笠間市では、合併当初から「特色ある学校づくり」に取り組んできました。現在は特色ある活動の中に学力向上のための施策を組み込んでいますが、各校の特色を打ち出していくという姿勢に変りはありません。ただ、競技大会や音楽祭ではどうしても大きい学校のほうが勢いがあるため、学校規模というものが様々な場面に影響を及ぼしているということが言えます。1クラスの人数は何人がいいのかという科学的根拠はありませんが、様々な規模の学校がある中で、先生方はある程度の適正な人数というものを感じ取っているはずだと思います。決して国の基準に縛られているわけではありませんが、少子化の中で今が学校再編の端境期にあるものと考えています。

意見：学区審議会の答申では友部の調整区域を従来そのままとしているが、こういう実例があると別な地域でも調整区域にしてほしいということになりかねない。こういう例外的な措置を残すことは将来的には決してよくないと考える。

回答：調整区域は統合の影響で生まれたものではなく、友部小学校と大原小学校の学区の見直しからスタートしたものです。ただし、協定当時の保護者・地域への事前説明が不足していたことから問題となった経緯があります。検討委員会の答申では調整区域の学区が明確になるよう再検討することが望ましいとしていましたが、学区審議会の答申では統合を軸に議論された結果であることをご理解いただきたいと思います。

意見：小学校連携教育によって行事や大会を学校間で共有することは非常に大切だと思う。実施にあたっては学校間で進めるべきなのか、それとも教育委員会が進めるべきなのか。

回答：岩間地区は1つの中学校に進学するので、小学校3校の連携教育は効果的だと考えています。こうしたプランは学校側が主体的に計画していくものですが、教育効果や児童の移動手段については教育委員会でサポートしていきたいと考えています。

意見：少子化による危機感を訴え掛けていくのが教育委員会の役目だと思う。今後も教育環境を守っていくために頑張ってもらいたい。

回答：笠間市では定住化対策や様々な子育て支援策を実施していますが、なかなか人口の増加につながりません。一番大切なのは、この地域が好きで将来ここで暮らしたいという思いを笠間の子どもたちに持ってもらいたいことだと思います。郷土教育を通して笠間市を好きになり、そしてここで家族と一緒に暮らしていきたいと思う子どもたちを育てていくことが、遠いようであっても案外近い施策ではないかと考えています。